

さくら級 国語科授業実践

1 単元名 スリーヒントクイズを楽しもう

2 単元の評価規準 (特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)より)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習の取り組む態度
伝え合う体験を通して、 ①読むことができる文字を増やすことができる。 ②いろいろな言葉の種類に触れることができる。 ③言葉による表現を楽しむことができる。 (2段階、内容Aの(イ)(ウ)及び内容イの(イ))	「聞くこと・話すこと」において、 ①語句と事柄を結びつけたり事柄を思い浮かべたりすることができる。 (2段階、Aア) ②伝えたいことを考え、相手に伝わるよう語句や発音・声の大きさに気を付けることができる。(3段階、Aオ)	相手の話に関心をもち、 ①相手の方を向いて、話の大体を聞き取ろうとする姿がある。 ②自分の思いや考えを相手に伝えたり、受け止めたりしようとする姿がある。

3 教材のとらえ

国語科の学習は、一人でする学習、みんなでする学習に分け、見通しが持てるようにパターンを決めて行ってきた。本単元は、みんなでする学習として、伝えたり聞いたりする意欲と能力の向上を図ることを目的にして設定した。

本単元の「スリーヒントクイズ」は、自分が選んだ答えを導き出すために3つのヒントを考える。ヒントを作るためには、答えになる物をイメージして「色」「形」「音」「用途」など様々な特徴をとらえることが必要になる。その中で、言葉の学習もしていきたいと考えている。

できたクイズは、友達や先生方に聞いてもらうことを目標にした。クイズを出すためには、相手に分かりやすく話すことや聞きやすい声の大きさなどを意識しなければならない。そこで、話し方を振り返ることをして、少しずつ聞いてもらう人数も増やして自信を持って話せるように進めたい。また、聞くことが苦手な児童も多くいるため、友達のクイズに答えると言うことを聞く目的にして、聞き方にも注意を向けさせるようにしたい。「楽しいクイズを作りたい。」、「友達や先生に出してみたい。」、「友達のクイズを聞きたい。」、「もっと、いろいろなクイズを作ってみたい。」など子供たちの意欲も大切にしながら進めていきたい。

4 本時の指導案

本時の目標

- ・相手に伝わるクイズのヒントを考えたり、話したりできる。
- ・聞き方に注意して聞くことができる。

学習活動	教師の支援・評価
1 めあてを確認する。  ヒント作り名人  発表名人 を目指してスリーヒントクイズを出しあおう。 2 本時の活動の確認をする。 3 クイズを作る。 ○ヒントを作るときに気をつけることは何ですか。 ・分かりやすいこと ・最後のヒントを特に分かりやすくする。 ・みんなが知っているものにする。 ○今日は「好きな食べ物」でクイズを作ろう。 ・ぼくは、寿司が好きだ。 ・何にするか迷うな。 4 クイズを出す順番を決める。 5 クイズを出し合う。 ○クイズを出すときに気を付けることはなんですか。 ・ゆっくり話す。 ・ヒントとヒントの間は空ける。 ・聞こえる声で話す。 6 感想を言い合う。 ・先生に答えてもらって良かったです。 ・話し方が良かったです。	・見通しが持てるように掲示する。 1、はじめにクイズを作ります。 2、クイズを出し合います。 3、感想を話し合います。 (主)進んで自分が伝えたい言葉を考え、相手に伝わるヒントを考えるという見通しを持って学習しようとしている。 ・「ヒントは特徴を考えて作る。」 ・「色、形、大きさ、音、用途」などのキーワードを知らせる。 ・クロムブック、カードを用意する。 ・思いつかないときには絵を描いて確認してよいことを知らせる。 ・早くできてしまった時には出すクイズを練習する。 ・希望が重なったときにはどうするか考えさせる。 ・クイズは3つのヒントを聞いてからでないと答えられないことや声の大きさ、話し方など確認しておく。 (思)「聞くこと・話すこと」において、伝えたいことを考え、相手に伝わるよう語句や話し方に気をつけている。 ・クイズを出してどうだったかや友達の良いところを話し合って次時につなげる。 ・良かったところを中心に話し合い成功体験や自信をもたせる。